

第2回 食品ロスの現状と課題

●春日部市での食品ロスの現状

春日部市の家庭から出る可燃ごみの総排出量は、平成30年度で年間約44,788t、そのうち食料廃棄量は約20,307tと、半分近くを占めています。また、食料廃棄量のうち、食べられるのに捨てられる未利用食品は年間約3,188tと推計されています。市民1人あたりの量は約38g/日（約にぎり寿司2貫分）ですが、さらに食品ロスの削減に努めましょう。

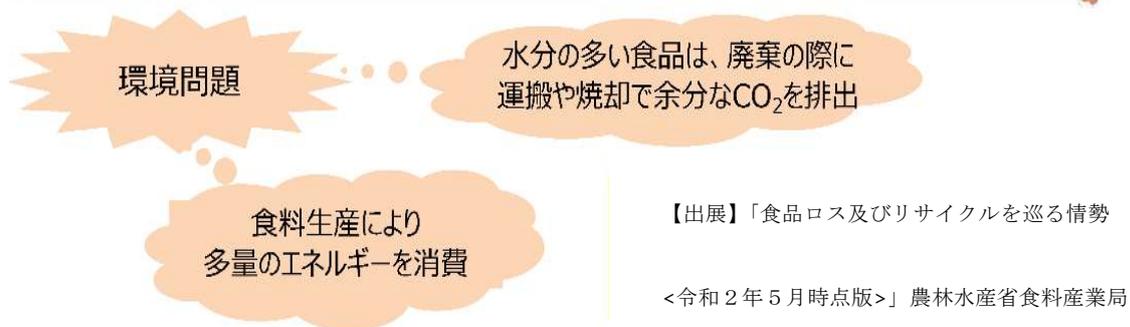
●環境への悪影響

廃棄された食品はごみ処理施設で焼却し処分していますが、水分の多い食品を廃棄する際には、運搬や焼却で余分なCO₂が排出されています。また、食料を生産する際にも多くのエネルギーを消費しています。

●市町村におけるごみ処理経費

食品ロスを含めたごみ処理に係る経費は、平成30年度は国内で年間2兆910億円、1人当たり16,400円がかかっています。※春日部市の平成30年度では、年間24億9,050万円、1人当たり約10,632円です。

食品ロスが引き起こす問題



これらの課題を踏まえ、「**食品ロスの削減の推進に関する法律**」では、食品ロスを削減していくための基本的な視点として、以下の①②が明記されています。

- ①国民各層がそれぞれの立場において主体的にこの課題に取り組み、社会全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくこと
- ②まだ食べることができる食品については、廃棄することなく、できるだけ食品として活用するようにしていくこと

食品ロスは、事業者と消費者の双方から発生しているものであり、全体で取り組んでいく必要があります。次回は食品事業者、消費者（家庭）から出る食品ロスについてお伝えします。